

第9回 出土文化財展



日 時:平成25年6月5日(水)～6月9日(日)
午前9時から午後5時まで
※5日(水)・6日(木)は午後7時まで

場 所:掛川市立中央図書館 1階 生涯学習ホール

掛川市教育委員会 社会教育課

弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の土壙墓を発見

たかだ いせき

高田遺跡 (第35次)

1. 調査地 掛川市吉岡
2. 調査原因 茶園の改植
3. 調査面積 1,300 m²
4. 調査期間 平成24年7月～平成24年11月

調査では、弥生時代後期(約1,800年前)の^{たてあなじゅうきよあと}竪穴住居跡が2軒、^{ほうけいしゅうこうぼ}方形周溝墓が4基、古墳時代の^{どこうぼ}土壙墓が5基、江戸時代の墓が2基発見されました。

竪穴住居は地面を掘り下げて床面をつくる住居です。1軒は、長径約6mのだ円形で、^{ちゅうけつ}柱穴や煮炊きをした炉跡が検出されました。通常の竪穴住居の主柱穴は4つですが、ここでは8つ発見されたことから、建て替えを2回している可能性が考えられます。炉は床面で直接火を焚いた^{じしやうろ}地床炉と呼ばれるもので、2つの炉が重なっていたため、建て替えに伴い炉の位置も移動したと考えられます。もう1軒はわずかに竪穴の痕跡が残っただけで、詳細は不明です。



竪穴住居跡



重なった2つの炉

方形周溝墓は、土壙(死者を葬った穴)の周囲に四角く溝を巡らせた墓で、弥生時代に造られました。1基は溝の一部が発見されただけでしたが、3基は約11m四方、約10m四方、約8m四方の規模で、溝が全周するものであることがわかりました。どの方形周溝墓も、土壙は発見されませんでしたでしたが、周溝の中からは壺が出土しました。

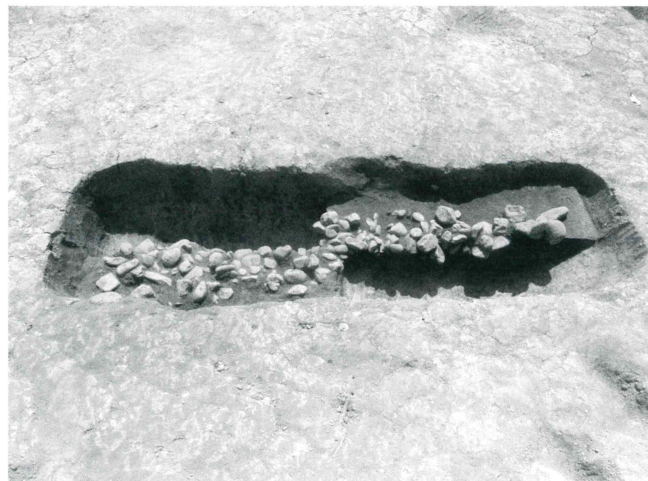


方形周溝墓

土壙墓とは地面を掘りくぼめた穴に死者を葬った墓で、土を盛り、墳丘を造った古墳と比べると簡易な形態のお墓です。最大のもので長さ 2.1m、幅 0.6m、最小のものは長さ 1.3m、幅 0.4m の規模でした。土壙墓の中からは、鉄刀・鉄鍬・刀子・鎌などの鉄製品が出土し、土器はほとんど出土していません。また 1 基には、底にこぶし大の石が敷きつめられていました。



土壙墓 鉄刀、鎌が出土した様子

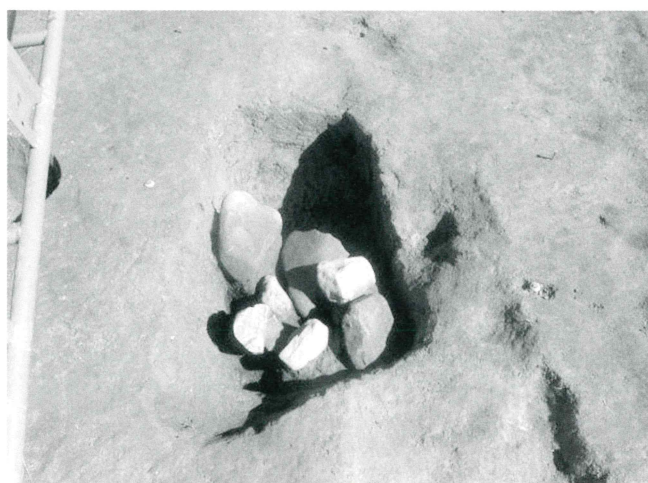


石が敷きつめられた土壙墓

江戸時代の墓は長さ 1 m、幅 0.8m と、長さ 1 m、幅 0.5m で、1 基からは、かわらけと寛永通宝かんえいつうほうが出土しました。もう 1 基には 30 cm 大の石がいくつも入れられていました。また炭と骨片が出土しており、この場で火葬されたと考えられます。



かわらけと寛永通宝が出土した様子



石が入れられていた墓



作業風景

弥生時代中期の方形周溝墓、古墳時代の土壙墓と古墳を発見

ほんむらいせき まえつぼこふんぐん

本村遺跡・前坪古墳群 5号墳

1. 調査地 掛川市高御所
2. 調査原因 都市計画道路建設
3. 調査面積 522 m²
4. 調査期間 平成24年11月～平成25年2月
5. 調査内容

調査地は、逆川左岸の丘陵上に位置しています。この丘陵上には、古墳6基からなる前坪古墳群と、本村遺跡が存在しています。本村遺跡の一部と前坪6号墳は、区画整理により平成7年度に発掘調査が行われ、弥生時代中期(約2,000年前)の方形周溝墓や土壙墓、古墳が発見されました。

また、今回調査した地点の西側には、前坪1号墳～4号墳が位置しています。その中で3号墳は、

平成8、9年に確認調査を行った結果、全長47m、後円部の直径約30mの前方後円墳であることがわかっており、出土した土器が古墳時代前期(1,650年前)のものであることから、掛川市内で最も古い前方後円墳となっています。

今回の調査では、本村遺跡からは、弥生時代中期から後期(2,000～1,800年前)の方形周溝墓と、古墳時代後期(1,500～1,400年前)の土壙墓が発見されました。

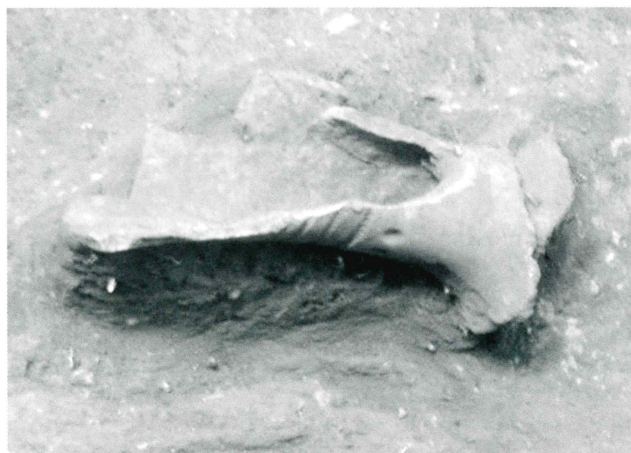
方形周溝墓は、溝の四隅が切れるものと全周するものがありますが、ここでは、四隅が切れていました。この溝からは、埋葬する際の祭祀に使用されたとされる赤く塗られ



調査地遠景



方形周溝墓



赤く塗られた弥生土器

た壺の破片が出土しました。

土壙墓は、7基発見されました。その中の1基は、長さ2.1m、幅1.3mの大きさの長方形でした。掘りこまれた穴の内側には、10~20cmの岩が幅20~30cm、高さ約20cmに積まれていました。これらの岩は、木棺を支えるために積まれたと考えられます。出土品は、ありませんでした。その他、後世に壊されていた土壙墓からは、管玉や須恵器のミニチュアの壺などが出土しました。



土壙墓



作業風景

前坪5号墳からは、埋葬施設が発見されましたが、出土品はありませんでした。墳頂からは、大きな須恵器の甕^{かめ}が出土しました。埋葬する際の祭祀に使用されたと思われます。また古墳の東側の斜面からは、須恵器の坏身^{つきみ}、坏蓋^{つきふた}の破片が多数出土しました。

これらの調査結果から、この丘陵上は弥生時代中期から古墳時代後期にかけて、墓域^{ぼいき}として使用されていたことがわかりました。



須恵器甕が出土した様子



東斜面の須恵器が出土した様子

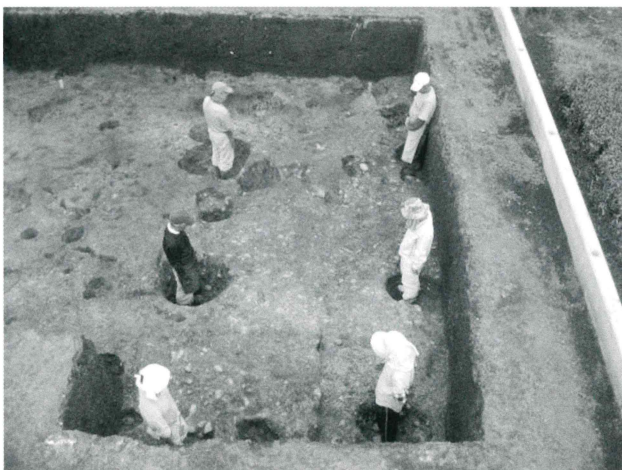
弥生時代後期の掘立柱建物跡を発見

たかだ いせき

高田遺跡 (第33次)

1. 調査地 掛川市高田
2. 調査原因 個人住宅の建築
3. 調査面積 68.58 m²
4. 調査期間 平成24年5月～平成24年6月
5. 調査内容

調査では、弥生時代後期(約1,800年前)の掘立柱建物跡1棟、^{しょうけつ}小穴、溝が発見されました。掘立柱建物跡は、柱間が1間×2間、規模は2.6m×4.6mありました。また、煮炊きした炉の跡が2か所で確認されており、竪穴住居跡があったと考えられます。



掘立柱建物跡：人が立っている場所が柱穴



調査区全景

開発予定地内に遺跡はありませんか？ 工事計画の前に確認してください。

掛川市内には現在702遺跡が知られており、県内でいちばん遺跡の多い市だといわれています。遺跡(埋蔵文化財)は、私たちの“心のふるさと”であり、後世の人たちに伝えていくことが大切です。

そのため、『文化財保護法』により、遺跡のある場所で、土木工事や建築工事、茶園の改植などをする場合には、事前に文化庁に届け出をすることが義務づけられています。

届け出をせずに工事を始めたところ、遺跡が見つかったため調査をすることになり、完成が遅れてしまった——ということがないように、工事を計画する場合には、早めに掛川市教育委員会社会教育課にご相談ください。

なお、教育委員会・図書館には、市内にある遺跡の様子を示した『遺跡地図』がありますので、工事を計画する前に必ず確認してください。

掛川市教育委員会 社会教育課 文化財係
電話(0537)21-1158

ここからは、平成 24 年度に整理調査を実施した遺跡を紹介します。

はやしいせき 林 遺跡

調査では、弥生時代後期から古墳時代前期（1,800～1,700 年前）の竪穴住居跡 4 軒、掘立柱建物跡 2 棟、土器集積穴 1、奈良時代（約 1,300 年前）の小穴などが発見されました。

土器集積穴は、長さ 3 m、幅 2 m の大きさのだ円形で、壊れた壺、甕、^{たかつき}高坏が数多く出土しました。土器を捨てた穴と考えられます。

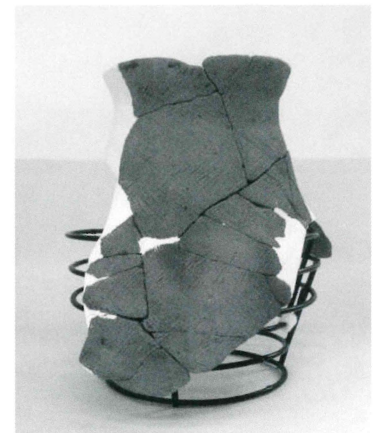


出土土器

めだかいちいせき 女高 I 遺跡

調査では、弥生時代中期（約 2,000 年前）の竪穴住居跡 5 軒、方形周溝墓 4 基を発見しました。

今回調査した方形周溝墓には、土壌の底の両端に細長い穴が掘られていることから、組み合わせ式の木棺が使われたことがわかりました。高田・吉岡地内で弥生時代中期の墓が発見されたのは初めてであり、貴重な資料を得ることができました。



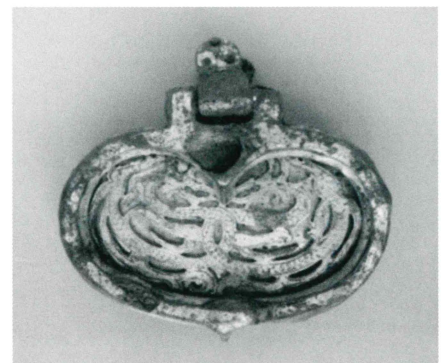
弥生時代中期の土器

ひがしばらいせき 東原遺跡

調査では、弥生時代後期（約 1,800 年前）の竪穴住居跡 15 軒、掘立柱建物跡 3 棟、溝などが発見されました。竪穴住居跡は、2、3 軒重なり合っており、何回も建て替えられたことがわかりました。竪穴住居跡からは煮炊きした炉、壊れた土器が出土しました。

鉄製品保存処理

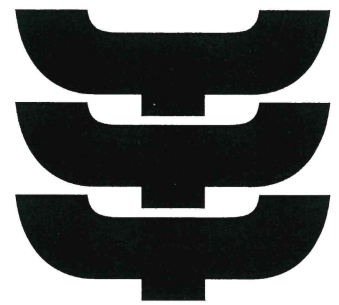
平成 4 年度に調査を行った堀ノ内 D-1 号横穴、堀ノ内 13 号墳から出土した^{ぎょうよう}杏葉 3 点の傷みが進んだため、再処理を行いました。



保存処理した杏葉



めいわ 明和9年(1772)5月21日(陰暦)、現在の長谷小出ヶ谷
 いんれき 地区において銅鐸一口が発見され、掛川藩に届け出されました。
 ながやこでがや 掛川市教育委員会では、この日を記念して、市民の埋蔵文化財
 どうたくいっく に対する理解と保護・保存しようとする意識の向上を願い、
 とどで 出土文化財展を開催しています。



文化財愛護シンボルマーク